

よくある質問（CIOF を利用する企業用）

■ データ取引について

データ取引ってデータを売買することですか？

CIOF が提供するものは、“データを活用した取引”です。データを提供または利用することで既存のサービスの付加価値を向上させ、さらに新たなサービスを可能とします。データそのものを売買することは想定していません。

工場のデータがクラウド上で流出するリスクは？

CIOF はデータをクラウド上に保存しません。提供されたデータはダイレクトに提供先に送られ利用されます。したがって、仮にクラウド上のサーバが攻撃されても、提供したデータが外部に流出することはありません。

特殊な業務でも他社とつながるのはなぜですか？

すべての工場は多かれ少なかれ特殊な部分があります。CIOF は個別の実情をそのまま個別辞書として定義し、共通辞書とのマッピングを管理しています。取引先との間で共通項目があれば、その内容のみを共通辞書化できれば十分です。

■ CIOF の利用について

IVI メンバー企業でなくても利用できますか？

CIOF は IVI の会員企業でなくても利用できます。IVI 会員企業の場合に、会員向けのセミナーなどを受講することができますが、一般向けに公開されている情報だけでも CIOF による企業間連携はできます。

サーバーなどの利用料金はいくらですか？

最低限として連携に必要な機能はすべて無料で利用することができます。取引先に利用を進める場合でも抵抗なくデータ連携を進めることが可能です。導入サポートや動作保証が必要な場合などは有料となります。

新たなシステム構築が必要ですか？

CIOF を利用してデータ連携を行うソフトウェアは、CIOF パートナーズのメンバー企業から提供されます。したがって、新たなシステム構築は不要ですが、利用する連携システムを登録する等の設定は必要となります。

よくある質問（CIOF パートナー企業様）

■ ビジネスモデルとして

どのようなメリットがありますか？

ユーザ企業は、取引先とデータ連携を DX することでサプライチェーンを強靱化できます。プロバイダー企業は、自社がもつ製品やサービスをオープン技術によって“つながる化”することで販路が広がります。

つながる化の方法を教えてください。

顧客に提供する製品やサービスを CIOF に接続するには、SDK（開発キット）を用いて連携ターミナルと API 接続可能とします。また、提供するサービスメニューやデータ構造を外部辞書として CIOF に登録します。

国際標準やグローバル対応はしていますか？

CIOF は日本独自の商習慣を含まないオープンな技術を用いており、国際標準やデファクト標準を容易に組み込むことが可能なアーキテクチャーです。国内のデータ取引ガイドラインや欧州のデータ法への対応も可能です。

■ パートナーズの運営について

担当者はどれくらいの負荷が発生しますか？

委員として CIOF パートナーズの運営に参加することも可能ですが、必須ではありません。会合は基本的にオンラインのフォーラム形式で開催されますので、特定の負担を強いることはありません。

費用はどれくらいかかりますか？

パートナー企業には、運営費用として1口50万円の負担をお願いしています。費用はヘルプデスクやシステム保守等に利用します。プロバイダー企業の場合は1口当たり最大3つのサービスが登録可能です。

IT企業ではなくても参加できますか？

CIOF はサプライチェーンを強靱化することで自社を含む取引先のネットワークを DX する際の強力なツールとなります。特にカーボンニュートラルへ向けた企業間のデータ連携や BCP 対策などで効果的です。